

お施主様用

FUKUVI

取扱説明書

フレッシュアロー (排気ファン) FAHCH, FAHCL型

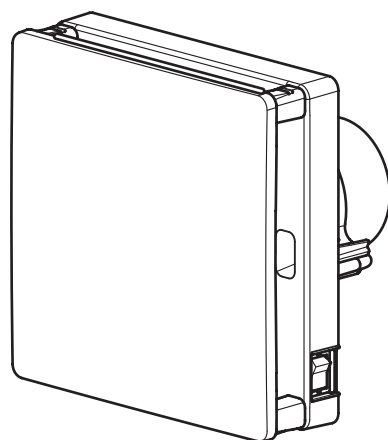
常時換気・トイレ・居間用

このたびはフレッシュアロー(排気ファン)をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
この換気扇は家庭用です。業務や換気以外の目的にはご使用にならないでください。

**この取扱説明書をよくお読みになり、
正しくご使用ください。**

お読みになったあとは、大切に保存してください。

この商品の取り付け、取り外しは専門工事が必要です。
販売店、専門工事店に依頼してください。
取付終了後は本取扱説明書をお施主様に必ずお渡しください。

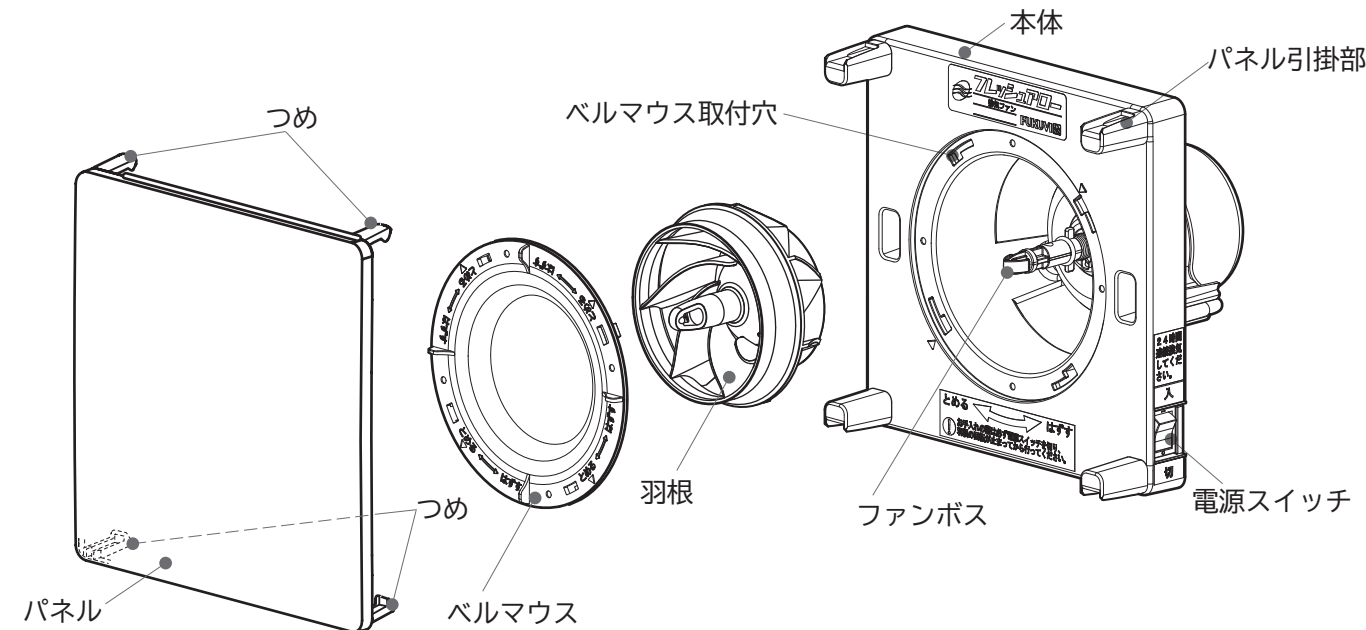


「安全上のご注意」→ P.4~5 をお読みいただき、
正しく取り付け、お使いください。

もくじ

	ページ
各部のなまえと取り扱いかた	2
安全上のご注意	4
お手入れのしかた	6
故障かなと思ったら	7
取り付け上のご注意	7
寸法図	7
取り付けかた	8
アフターサービス	14
仕様	16

各部のなまえと取り扱いかた



ご注意 電源スイッチが「切」になっていることを確認してから取付・取外しは行ってください。電源スイッチが「切」になっていないとファンが回転していますので、手を巻き込みけがをする恐れがあります。

パネルの脱着

パネルには無理な力(引っ張ったり、こじったり)を加えないでください。パネルが破損する恐れがあります。

外し方		取付方	
壁面に取り付けの場合	天井面に取り付けの場合	壁面に取り付けの場合	天井面に取り付けの場合
① 片方の手で本体を押さえ、もう一方の手でパネル右下側部を持ち、斜手前に引き、パネルのつめを本体から外します。	① 片方の手で本体を押さえ、もう一方の手でパネルのつめ側を持ち、斜め下に引き、パネルのつめを本体から外します。もう一方のパネルのつめも同様に外します。	① パネルの上側のつめ(2ヶ所)を本体のパネル引掛部の取付穴へ差し込みます。	① パネルの上側のつめ(2ヶ所)を本体のパネル引掛部の取付穴へ差し込みます。
② 片方の手で本体を押さえ、もう一方の手でパネル左下側部を持ち、斜手前に引き、パネルのつめを本体から外します。	② パネルを矢印側に押し、反対側の2ヶ所のつめを外し、パネルを本体から外します。	② パネルの下側のつめ(2ヶ所)を本体のパネル引掛部の取付穴へ差し込みます。	② パネル下側のつめ(2ヶ所)をパネル引掛部の取付穴に押し込みます。
③ パネルを上側に押し上げ、上側2ヶ所のつめを外し、パネルを本体から外します。			

● パネルを軽く引っ張って本体に確実に取り付けられていることを確認してください。

ベルマウスの脱着

外し方	取付方
● 持手に指を掛け「はずす」の方向に回し、手前に引き、外します。	● ベルマウス取付穴にベルマウスのつめ(4ヶ所)を合わせ、本体側に押し込みます。 ● ベルマウスの持手部に指を掛け、「とめる」の方向に回し、ベルマウスを取り付けます。 ● ベルマウスを手前に引き、外れないことを確認してください。

羽根の脱着

外し方	取付方
● 片方の手でファンボスの爪部を指でつまみ、羽根の固定を解除したまま、もう一方の手で羽根の軸部を持って手前に引き、外します。 ご注意 手の爪が長いと、爪を折る可能性があります。爪を切っていただくか、爪の短い方が行ってください。	● ファンボスに羽根の中心を合わせ、押し込みます。「カチ、カチ」と2回音がするまで強く押し込みます。 ご注意 ● 羽根の開口部とファンボスの爪部の向きを下図のように合わせて、羽根を押し込んでください。 ● 爪部の先端(2ヶ所)が開口部の平面部にかかっていることを確認してください。 ● 羽根を軽く手前に引き、羽根が手前にでてこないことを確認してください。

運転のしかた

● 本体の電源スイッチで、換気扇の「運転」「停止」を行います。電源スイッチを入れると羽根が回り、室内の空気を換気します。

安全上のご注意

ご使用前、取り付け前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

■ここに示した注記事項は

表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷を負うことが想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は、「傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される」内容です。

絵表示の例

	「警告や注意を促す」内容のものです。
	してはいけない「禁止」内容のものです。
	必ず実行していただく「指示」内容のものです。

 警 告	
 修理技術者以外は絶対に分解したり、修理・改造しない ●発火したり、異常動作してけがをすることがあります。	 ガス漏れの恐れがある場合は、換気扇を使用しない また、電源スイッチを操作しない ●爆発・引火の恐れがあります。
 お手入れの際は必ず電源スイッチと分電盤のブレーカーを切る ●感電やけがをすることがあります。	 交流100V以外では使用しない ●火災・感電の原因になります。
 水につけたり、水をかけたりしない ●ショート・感電の恐れがあります。	 外気取り入れ口は、燃焼ガスなどの排気口より離れた位置に設ける ●室内の酸欠の原因となります。
 給気口、給気用換気扇は、燃焼ガスなどの影響のない位置に設ける ●室内の酸欠の原因となります。	 電源スイッチや分電盤のブレーカーはぬれた手で操作しない ●感電やけがをすることがあります。
 メタルラス、ワイヤラス、または金属板張りの木造造営物に金属製ダクトを貫通する場合、メタルラス、ワイヤラス、金属板と接触しないように取り付ける ●漏電した場合、発火することがあります。	

 注 意	
 部品の取り付けは確実に ●落下によりけがをすることがあります。	 運転中は危険ですから羽根の中に指や物を入れない ●けがの恐れがあります。
 本体に異常な振動が発生した場合使用しないこと ●本体・部品の落下によりけがをすることがあります。	 お手入れの際は必ず手袋を着用する ●薄板の切口などでけがをすることがあります。
 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わない（浴室用換気扇をお使いください） ●感電および故障の原因になります。	 直接炎があたる恐れのある場所には取り付けない ●火災の恐れがあります。
 本体の取り付け工事は十分強度のあるところを選んで確実に 強度不足の場合には補強する ●落下によりけがをすることがあります。	 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に ●誤った配線工事は感電や火災の恐れがあります。
 取り付けのときは必ず手袋を着用する ●部品の切口などでけがをすることがあります。	

お手入れのしかた

約3か月に1度を目安に汚れが目立つようになったら各部の掃除をしてください。

⚠ 警 告

!

お手入れの際は必ず電源スイッチと分電盤のブレーカーを切る

●感電やけがをすることがあります。

⚠ 注 意

!

お手入れの際は必ず手袋を着用する

●部品の切口などでけがをすることがあります。

ご注意

●高所作業となりますので、足場を安定させ、十分注意して作業をしてください。

●シンナー・アルコール・ベンジン・ガソリン・スプレー・灯油・みがき粉・アルカリ性洗剤・けんま剤入りの洗剤などは使用しないでください。プラスチック部品が変形、変色します。

●60℃以上の熱湯は使用しないでください。プラスチックの部品が変形します。

●本体の突起や角でけがをしないように静かにふいてください。

●化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

●水洗いした部品は十分に自然乾燥させてください。異臭や故障の原因になります。

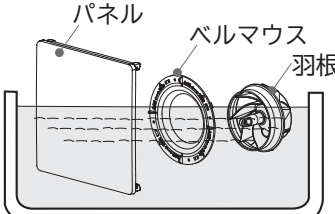
部品の外しかた

- 分電盤のブレーカーおよび電源スイッチを切り、手袋を着用します。
- パネル、ベルマウス、羽根を外します。→ P.2～3

汚れをとります

パネル・ベルマウス・羽根

外した各部品を台所用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて洗ってください。
汚れを落としたあと、洗剤が残らないように水洗いしてください。



本 体

⚠ 警 告

🚫

水につけたり、水をかけたりしない

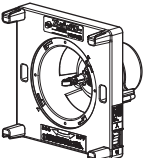
●ショート・感電の恐れがあります。

台所用中性洗剤を溶かしたぬるま湯に浸した布をよく絞ってから汚れをふき取ってください。汚れを落としたあと、洗剤が残らないよう十分ふき取ってください。

ご注意

●本体は、壁面または天井面に取り付けたままお手入れをしてください。

●電源スイッチには、水が入らないようにしてください。



取り付けかた

- 羽根、ベルマウス、パネルの順番に部品を取り付けます。→ P.2～3

⚠ 注 意

!

部品の取り付けは確実に行う

●落下によりけがをすることがあります。

お手入れ後、十分に自然乾燥させた部品を取り付けます。
部品を取り付けたあと次の項目について確認をしてください。

- 羽根・ベルマウス・パネルが確実に取り付けられていること。
- 異常な振動や騒音がないこと。

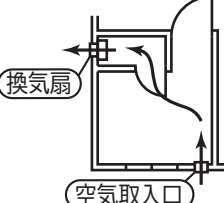
6

故障かなと思ったら

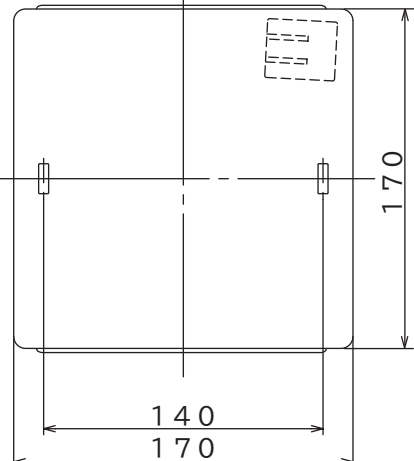
修理を依頼される前に 次の点をもう一度お調べください。

症 状	点 検 す る と こ ろ
運転しない	●電源スイッチが切になっていませんか ●電源(ブレーカー)が切れていませんか。
排気しない	●羽根・ベルマウスはついていますか。

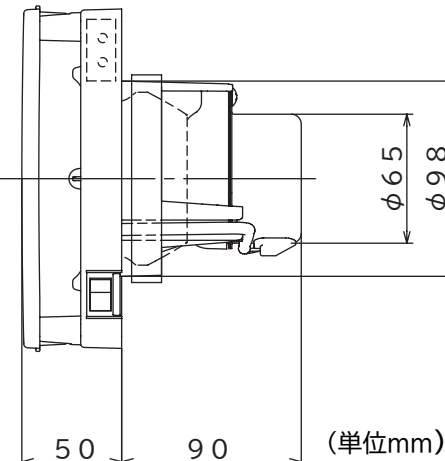
取り付け上のご注意

ご注意	
●パネルは、本体のパネル引掛部に引っ掛けて固定してください。 不完全ですと落下する恐れがあります。	●接続パイプは室内側に結露水がたれないように屋外側に向けて下りこう配（1/100以上）になるようにしてください。
●40℃を超える場所には取り付けないでください。 プラスチック部品の変形や故障の原因になります。	●有機溶剤を使用するところには取り付けないでください。 合成樹脂部品が変色・変形することがあります。
●密閉された部屋で使用する場合は効率良く排気するために十分な空気取入口を換気扇と反対側の位置に設けてください。 	●電源スイッチを設置される場合は、両切りスイッチをご使用ください。片切りスイッチを使用する場合は電圧側に接続してください。 なお、24時間常時換気としてご使用の場合、スイッチの設置位置や仕様についてはお施主様と十分ご相談のうえ決定してください。
●一般家庭の居室、トイレ、洗面所以外には取り付けないでください。 故障の原因になります。	●必ず合板下地を施工するようにしてください。 合板下地がない場合は、本体運転時の異音の原因にもなります。
●勾配天井には取り付けないでください。 異常な振動や異常な音の発生およびモーターの故障の原因になります。	●取り付けは専門工事が必要です。 必ず専門工事店に依頼してください。
●本説明書の取り付け方に従って確実に取り付けてください。	●天井面に取り付けの場合は点検口を必ず設けてください。 13頁の取付例をご参照願います。

寸法図

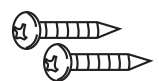


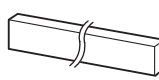
170
140
170



50 90
φ65 φ98
(単位mm)

付属品

木ねじ 2本(φ4×25)
*本体取り付け用です。


パッキン 1本


7

取り付けかた

「安全上のご注意」→ P.4~5 を守り、確実に取り付けをしてください。

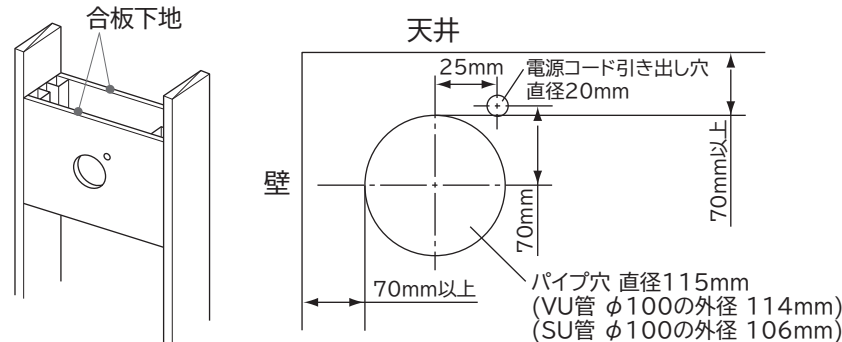
壁面に取り付けの場合

パイプの取り付け

- ① 図のように、パイプ用・電源コード用それぞれの穴を開けた合板下地 (t=12mm) を施工します。

ご注意

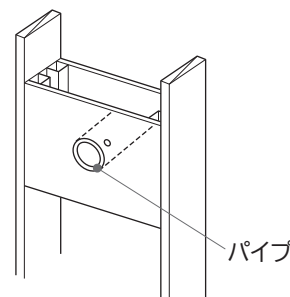
必ず合板下地を施工するようにしてください。
合板下地がない場合は、本体
運転時の異音の原因にもなり
ます。



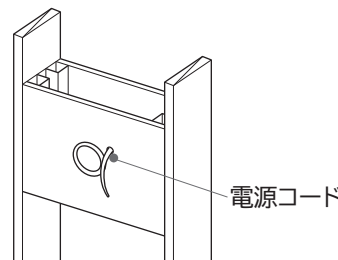
- ② パイプ (VU管φ100またはSU管φ100) を差し込みます。

ご注意

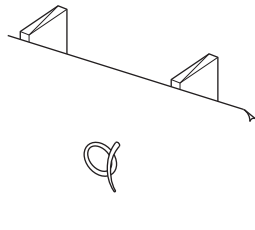
パイプの長さは、以下の通りとします。
屋内仕上面から屋外仕上面までに15mm程度足した長さとし
ます。
(屋外仕上面から15mm程度外に出すようにします。)



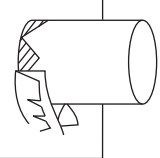
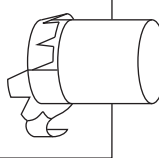
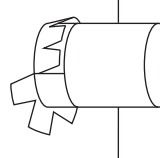
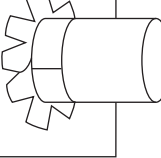
- ③ 電源コード (VVFケーブルφ1.6またはφ2) の配線をします。
壁面内側から製品取付面 (屋内仕上面) へ電源コードを貫通配線します。
● 電源は交流100Vとし、単独のブレーカーから配線します。



- ④ 屋内側は気密防湿シート (フクビ バリアエース) を施工します。



- ⑤ パイプの周囲は気密テープ (フクビ バリアシール) を使用して気密処理をしてください。
<施工手順>

 ① テープを被着体の外周の1.5倍の長さに切ってください。 ② はく離紙の背割り部分で二つ折りにし、切り込みのない側のはく離紙をはがしてください。	 ③ 被着体の根元に2/3程度貼り付けてください。 ④ 切り込みの入った側のはく離紙をはがし、根元部分から外側に貼り広げてください。	 ⑤ この操作を繰り返し、テープを被着体の周りに貼り広げてください。	 ⑥ 貼り終わりの被着体の根元部分に、カッターなどで1cm程度切り込みを入れてください。
--	--	--	--

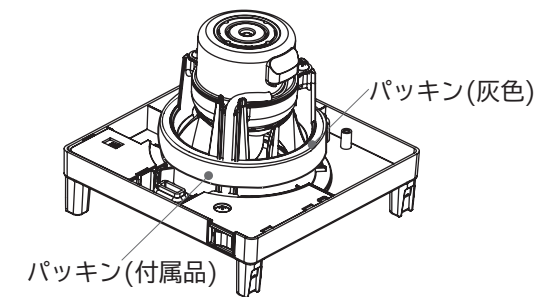
※必要以上に引っ張りますとテープ切れの可能性があるのでご注意ください。
※下地のある箇所に施工してください。

商品の取り付け

- ① パネルを外します。→ P.2

- ② パッキン (付属品) を貼り付けます。 (VU管100を使用するとき)

VU管φ100のパイプを使用するときは、パイプ内側のすき間を塞ぐため、すでに貼り付けてある灰色のパッキンの上に付属品のパッキンを貼り付けます。
1回巻きつけてあまった部分のパッキンは切り取ってください。



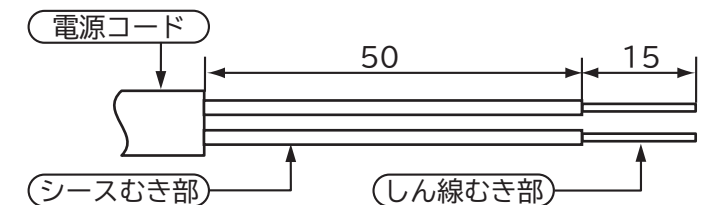
- ③ 電気配線をします。

注意

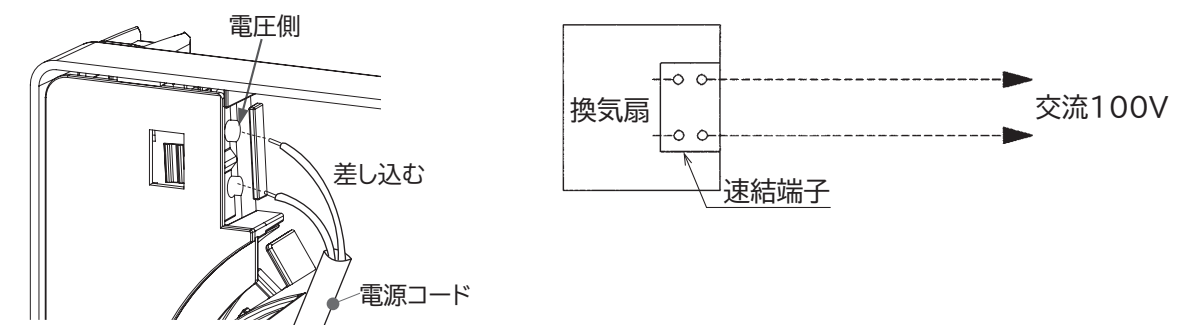


配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に行う
● 誤った配線工事は感電や火災の恐れがあります。

- VVFケーブル (φ1.6またはφ2) の先端を右図のように加工します。



- VVFケーブルの先端を速結端子へ差し込み、確実に接続します。



お願い

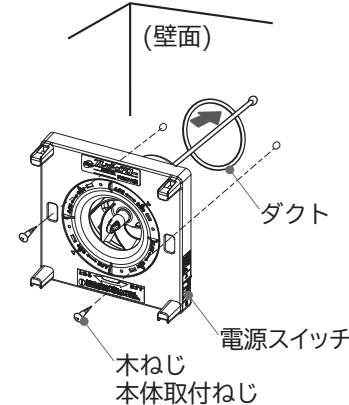
- 電気配線は必ず専門の電気工事店へご依頼ください。

取り付けかた(つづき)

壁面に取り付けの場合

4 本体を壁面に固定します。

- 電源スイッチの位置が必ず右側面の下側になることを確認してダクトに差し込み、付属の木ねじ(2本)で固定します。
- 合板下地にしっかり固定してください。
 - 取付方向を誤りますと、汚れや結露により故障や感電の恐れがあります。



5 パネルを取り付けます。→ P.2

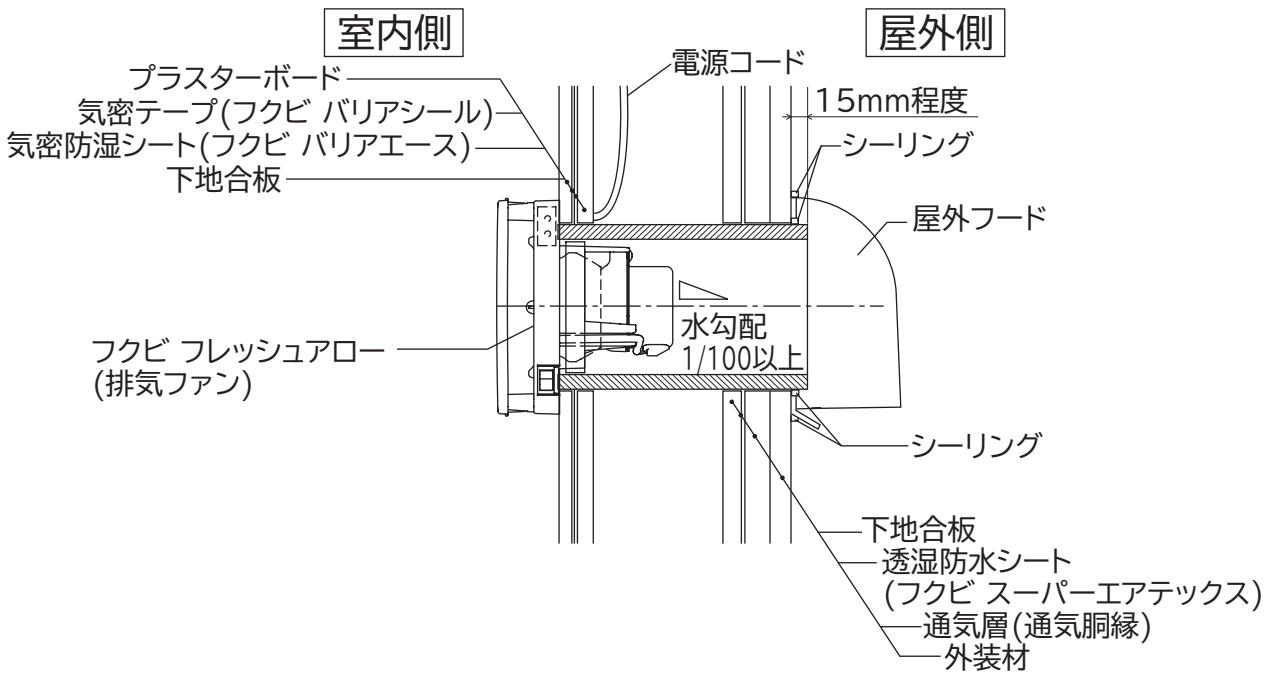
6 屋外フードを取り付けます。

- ご注意**
- 屋外フードの取り付けは、ご使用される屋外フードの取り付け説明書を参照してください。

7 試運転を行います。

- 製品の取り付け強度が十分であることを確認してください。
- 電源スイッチを「入」にして運転したとき、異常音、異常振動がないことを確認してください。
- 電源スイッチを「切」にしたとき、羽根の回転が止まることを確認してください。

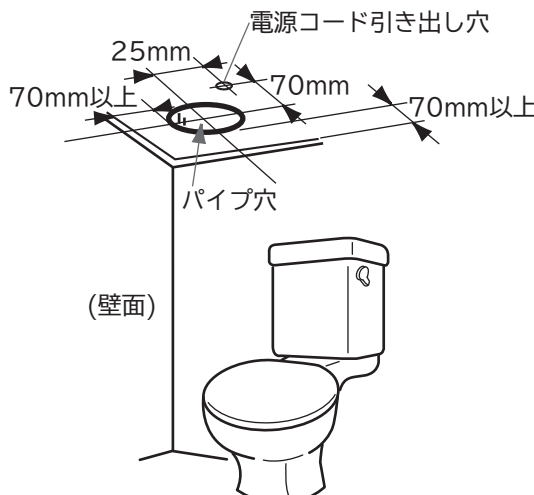
取付例(断面図)



天井面に取り付けの場合 勾配天井には取り付けない

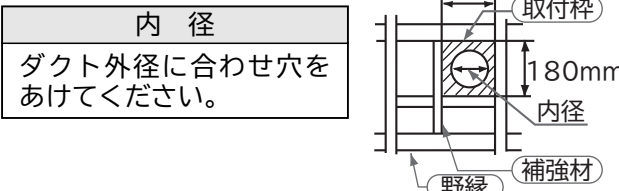
取付枠の取り付けとダクト配管

- ①ダクトの位置を決めます。
壁面から70mm以上離してください。

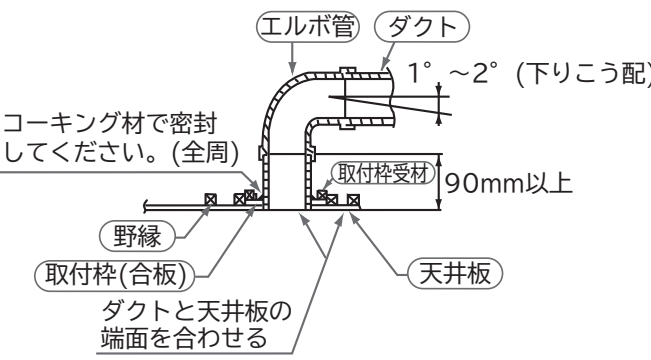


- ②ダクトを選びます。
パイプ穴直径115mm
(VU管φ100の外径114mm)
(SU管φ100の外径106mm)

- ③取付枠(合板)を取り付けます。
●製品の重量が十分支えられるように補強材を使って野縁に固定します。
●取付枠は、下図の寸法にしてください。
(厚さは、15mm以上)



- ④ダクト配管を行います。ダクトの外径に合わせて、天井面に穴をあけ、ダクトを確実に取り付けます。
●ダクトの長さは5m以下にしてください。

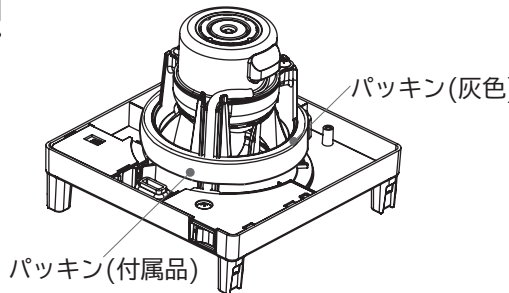


商品の取り付け

1 パネルを外します。→ P.2

2 パッキン(付属品)を貼り付けます。(VU管100を使用するとき)

- VU管φ100のパイプを使用するときは、パイプ内側のすき間を塞ぐため、すでに貼り付けてある灰色のパッキンの上に付属品のパッキンを貼り付けます。
1回巻きつけてあまった部分のパッキンは切り取ってください。



取り付けかた(つづき)

天井面に取り付けの場合

③ 電気配線をします。

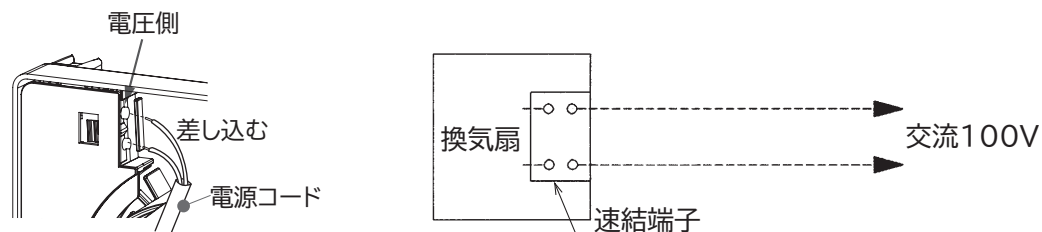
⚠ 注意

- ❗ 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に行う
- 誤った配線工事は感電や火災の恐れがあります。

- VVFケーブル(φ1.6またはφ2)の先端を右図のように加工します。



- VVFケーブルの先端を速結端子へ差し込み、確実に接続します。



お願い

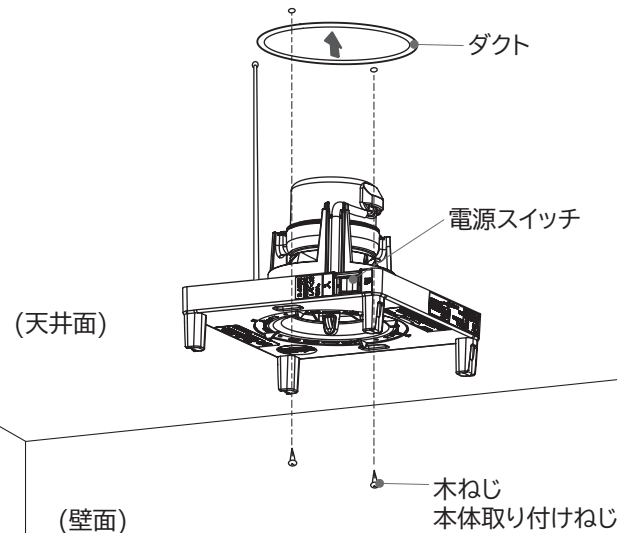
- 電気配線は必ず専門の電気工事店へご依頼ください。

④ 本体を天井面に固定します。

- 付属の木ねじ(2本)で固定します。
- 合板の取付枠にしっかり固定してください。

ご注意

- 必ず付属の木ねじを用い確実に固定してください。
- 落下によりけがをする恐れがあります。
- お手入れ時に電源スイッチを操作しますので、電源スイッチは操作ができるように壁面と反対側に取り付けてください。



⑤ パネルを取り付けます。 → P.2

⑥ 屋外フードを取り付けます。

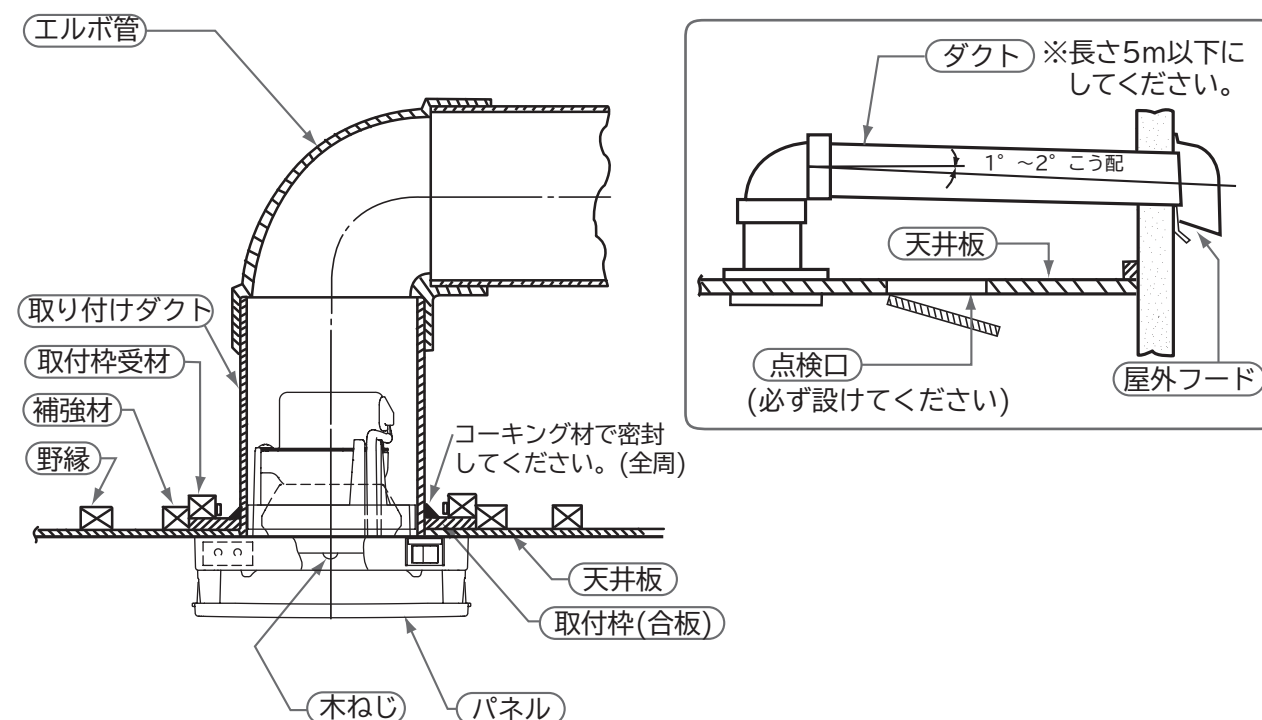
ご注意

- 屋外フードの取り付けは、ご使用される屋外フードの取り付け説明書を参照してください。

⑦ 試運転を行います。

- 製品の取り付け強度が十分であることを確認してください。
- 電源スイッチを「入」にして運転したとき、異常音、異常振動がないことを確認してください。
- 電源スイッチを「切」にしたとき、羽根の回転が止まることを確認してください。

取付例(断面図)



⚠ フレキシブルダクトは本体に直接つなげないでください。

アフターサービス(必ずお読みください)

補修用性能部品の保有期間

換気扇の補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後6年です。

- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談ならびに不明な点は、お買い上げの販売店または下記窓口にお問い合わせください。

修理を依頼されるときは

7ページに従って調べていただき、なお異常のあるときは、ご使用を中止し、お買い上げの販売店にご連絡ください。

ご連絡していただきたい内容

品名	換気扇
型名	
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印なども併せてお知らせください。
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	

修理料金の仕組み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器などの設備費、一般管理費などが含まれます。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材などを含む場合もあります。
出張料	商品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

出張修理

愛情点検

★長年ご使用の換気扇の点検を



ご使用の際、このような症状はありませんか？

- 電源スイッチを入れても時々羽根が回転しないことがある。
- 回転が遅い。または回転が不規則である。(排気が弱い)
- 運転中に異常な音や振動がする。
- 焦げ臭いにおいがする。
- その他の異常がある。

ご使用中止

このような症状のときは、故障や事故防止のため、電源スイッチと分電盤のブレーカーを切り、必ず販売店に点検・修理をご相談ください。

お問い合わせ窓口

東京 ☎ (03)5742-6301
札幌 ☎ (011)896-7500
新潟 ☎ (025)241-7832
東関東 ☎ (029)841-7611
神奈川 ☎ (045)470-1050
京都 ☎ (075)662-2315
岡山 ☎ (086)232-0601
沖縄 ☎ (090)1943-2112

大阪 ☎ (06)6386-6950
盛岡 ☎ (019)654-7511
宇都宮 ☎ (028)636-3521
千葉 ☎ (043)247-3651
静岡 ☎ (054)288-3600
広島 ☎ (082)246-7211
福岡 ☎ (092)471-5800

名古屋 ☎ (052)532-6661
仙台 ☎ (022)287-3471
北関東 ☎ (048)661-0400
西東京 ☎ (042)529-3911
北陸 ☎ (0776)38-8010
高松 ☎ (087)835-3721
鹿児島 ☎ (099)259-0220

長期使用製品安全表示制度に基づく本体表示について

(本体への表示内容)

※経年劣化により危害の発生が高まるおそれがあることを注意喚起するために電気用品安全法で義務付けられた以下の内容の表示を本体に行っています。



【製造年】本体に西暦4ケタで表示してあります

【設計上の標準使用期間】15年

設計上の標準使用期間を超えてお使いいただいた場合は、経年劣化による発火・けが等の事故に至るおそれがあります。

(設計上の標準使用期間とは)

※運転時間や温湿度など、標準的な使用条件に基づく経年劣化に対して、製造した年から安全上支障なく使用することができる標準的な期間です。

※設計上の標準使用期間は、無償保証期間とは異なります。また、偶発的な故障を保証するものではありません。

■標準使用条件

日本工業規格 JIS C9921-2による

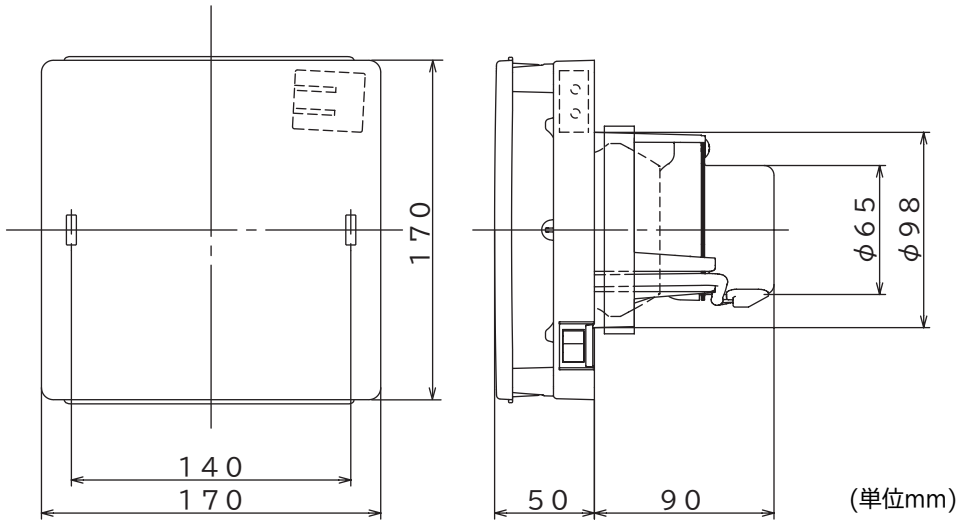
環境条件	電圧	単相100V	
	周波数	50Hz 又は／ 及び 60Hz	
	温度	20℃	
	湿度	65%	
	設置条件	標準設置	製品の取扱説明書による
負荷条件		定格負荷(換気量)	製品の取扱説明書による
想定時間	1年間の使用時間	換気時間 ^{a)}	
		台 所 2 410 時間	
		居 室 2 193 時間	
		トイレ 2 614 時間	
		浴 室 1 671 時間	
注記 温度20℃、湿度65%は、JIS C 9603の試験状態を参考としている。			
注 ^{a)} 常時換気(24 時間連続換気)のものは、8 760 時間/年とする。			

●「経年劣化とは」

長期間にわたる使用や放置に伴い生ずる劣化をいいます。

仕様

この製品は日本国内家庭用です。電源電圧や電源周波数の異なる海外では使用できません。
また、アフターサービスもできません。



型名	FAHCH	FAHCL
電 源	100V 50/60Hz	
消費電力(W)	1.8/2.4	1.8/2.4
風 量(m³/h)	52/53	40/43
質 量(kg)	0.7	0.7

お客様メモ
後日のために記入して
おいてください。
サービスを依頼される
とき、お役に立ちます。

購入店名

電話 () -

ご購入年月日

平成

年

月

日



フクビ化学工業株式会社

<http://www.fukuvi.co.jp>

本社／福井市三十八社町33の66 ☎ (0776) 38-8013 〒918-8585
工場／本社・坂井(福井)・三方(福井)・大阪・盛岡・タイ国・USA
東京 TEL(03)5742-6300 大阪 TEL(06)6386-6950 名古屋 TEL(052)532-6661
札幌 盛岡 仙台 新潟 宇都宮 北関東 東関東 千葉 西東京 神奈川
静岡 北陸 京都 広島 高松 岡山 福岡 鹿児島 沖縄